

平成24年山梨県観光入込客統計調査結果 概要

※()内のページ数は調査報告書の記載箇所に対応

調査方法 ～観光庁が定めた「観光入込客統計に関する共通基準」に基づく調査～(※平成22年4月より共通基準を導入)

- 観光入込客数調査・・・396地点(施設等302地点、行祭事・イベント94)
 - ・自然(山岳、湖等)、文化歴史(神社、美術館、ワイナリー等)、温泉、スポーツレクリエーション(公園、遊園地等)、都市型観光(農産物直売所等)、その他(道の駅等)、行祭事・イベントなど、県内の観光地や観光施設に対して、来客の利用状況を調査
- 宿泊客数調査・・・1,319施設
 - ・観光庁が実施する宿泊旅行統計調査の結果を使用。
- アンケート調査・・・3,351サンプル
 - ・対面聞き取り方式
 - ・四季毎に、年4回×県内10箇所で開催
 - ・主な質問項目：性別、年齢、居住地、旅行目的、消費動向、利用交通機関、満足度 等

平成24年調査結果

～観光入込客数調査結果～(P7,P10)

○山梨県観光入込客(実人数)は**2,735万1千人**であり、前年比 **+16.1%**
うち、訪日外国人客は77万3千人であり、前年比 **+266.4%**

※訪日外国人客はアンケート調査の結果に基づき算出しているが、サンプル数が少ないため参考値扱い。

・日帰り客(実人数)は**2,113万4千人**であり、前年比 **+16.5%**
宿泊客(実人数)は**621万7千人**であり、前年比 **+14.7%**

・県外客(実人数)は**1,957万7千人**であり、前年比 **+5.3%**
県内客(実人数)は**700万1千人**であり、前年比 **+47.2%**

※訪日外国人客を除く。

○観光消費額は、県全体で**3,312億円**であり、前年比 **+33.6%**
1人当たりの平均観光消費額は、**12,109円**であり、前年比 **+15.1%**

～アンケート調査結果～

- 観光客の居住地(P37)
来訪者の多い県は、東京都(26.4%)、静岡県(15.3%)、神奈川県(13.9%)の順となっている。
首都圏からの来訪者は県外観光客の60.7%を占める。
- 観光客の交通手段(P53)
調査地点までの利用交通機関は、「マイカー」(77.0%)が最も多く、次いで「貸切・観光バス」(8.4%)と続く。
- 旅行目的(複数回答)(P45)
県外観光客の旅行目的は「自然を楽しむ」(33.2%)が最も多く、次いで、「温泉を楽しむ」(27.5%)と続く。
- 同行者(P47)
県外観光客の同行者は「家族」(65.4%)が最も多く、次いで「友人」(20.1%)と続く。
- 山梨への訪問頻度(P49)
県外観光客の山梨を訪れる訪問頻度は「1年に1回以上」が61.6%と最も多く、次いで「2～3年に1回程度」が18.9%と続く。
- 旅行計画の参考資料(P52)
県外観光客の旅行計画の参考資料は「インターネット」が35.5%と最も高く、次いで「家族、友人の話」が34.8%と続く。

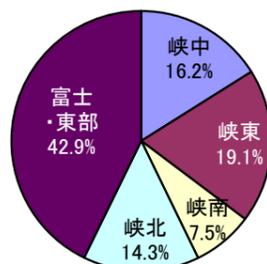
圏域別の比較

～圏域別観光入込客(実人数)～(P10)

○全ての圏域において、平成23年から**10%以上の増加**となった。

- 峡中は**442万3千人**であり、前年比 **+16.6%**
- 峡東は**522万3千人**であり、前年比 **+13.2%**
- 峡南は**204万6千人**であり、前年比 **+12.7%**
- 峡北は**392万1千人**であり、前年比 **+11.9%**
- 富士・東部は**1,173万8千人**であり、前年比 **+19.4%**

【圏域別 構成比】



月別の比較・分析 ～平成22年・平成23年と平成24年の比較～

～月別観光入込客数(実人数)～(P8,P18)

○震災の影響で落ち込んだ平成23年と比較して**16.1%の増**。平成22年と比較しても**4.8%の増加**となり、震災前の水準を回復した。※H24年とH22年の比較は、4～12月の9か月計で行った。

○近場の観光スポットで消費を押さえながら楽しむ安・近・短型の観光旅行を志向する傾向が続いており、スポーツ・レクリエーション施設や日帰り温泉、道の駅などが好調に客足を伸ばした。

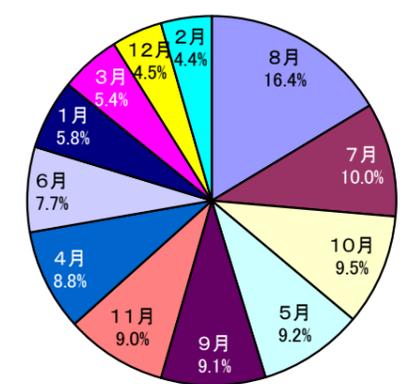
○季節ごとの傾向としては、春季(3・4月)は入込が大幅に回復し、夏季(7～9月)は観光ハイシーズンにおける入込の集中と大幅な増加がみられたが、対照的に秋季(10・11月)以降の入込は低調となった。とりわけ、12月は中央自動車道上り線笹子トンネル天井板落下事故により、入込客数は大幅に減少した。

【月別 3か年比較】

項目	平成22年	平成23年	平成24年	対前年比	対前々年比
1月	-	1,514,898	1,599,975	105.6%	-
2月	-	1,224,127	1,206,782	98.6%	-
3月	-	938,975	1,483,243	158.0%	-
4月	1,776,220	1,562,195	2,402,975	153.8%	135.3%
5月	2,131,758	2,447,313	2,516,816	102.8%	118.1%
6月	1,517,021	2,010,492	2,098,208	104.4%	138.3%
7月	2,413,223	2,017,148	2,743,076	136.0%	113.7%
8月	3,972,347	3,288,728	4,493,550	136.6%	113.1%
9月	2,155,430	1,751,124	2,502,374	142.9%	116.1%
10月	3,187,199	2,856,799	2,609,626	91.3%	81.9%
11月	3,113,676	2,534,313	2,472,802	97.6%	79.4%
12月	1,747,126	1,407,888	1,221,572	86.8%	69.9%
年計	-	23,554,000	27,351,000	116.1%	-
9か月計	22,014,000	19,876,000	23,061,000	116.0%	104.8%

(単位:人、%)

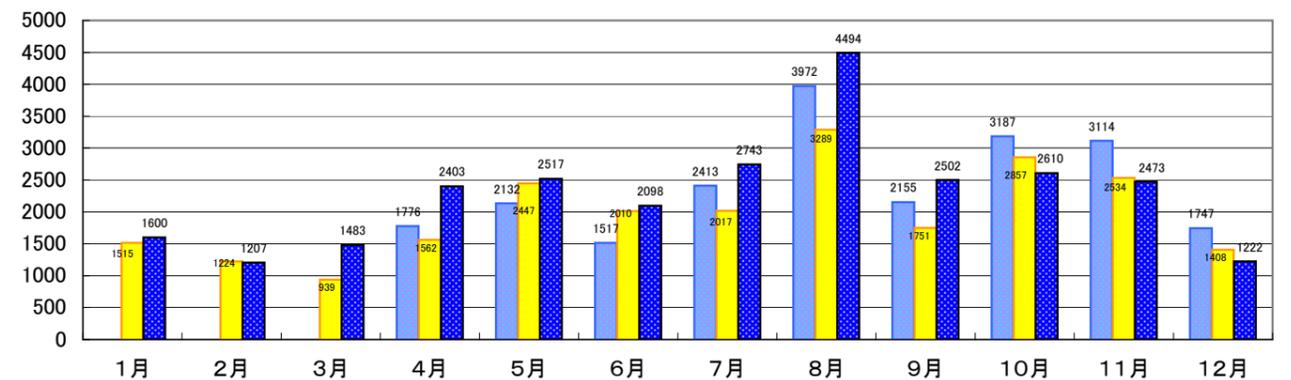
【月別 構成比】



※平成22年1～3月は、「観光入込客統計に関する共通基準(観光庁)」導入前のため数値なし。

※端数処理をしているため表中の合計値と個々の数値の合計が一致しないことがある。

【月別 3か年比較】
千人



～月別の傾向～(P25～28)

○3月、4月は東日本大震災及び福島原発事故の影響で大きく減少した前年から回復し、50%以上増加した。震災で自粛・中止されていたイベントが再開されたことが大きく影響したとみられる。

○7月～9月の夏のハイシーズンにおいては、主力の富士山・富士五湖エリアへの入込が大幅な伸びを示すなど好調であった。震災後の噴火懸念が緩和されたことや世界文化遺産登録の動きに伴う富士山人気の高まりなどが影響したとみられる。

○10月、11月は、夏季の入込客数増の反動もあってか、低調であった。果物狩りなどの低迷や連休・週末の悪天候、ガソリン価格の上昇も影響したものとみられる。

○12月は、2日に中央自動車道上り線笹子トンネルで天井板落下事故が発生し、29日の対面通行開通までの期間は完全通行止めとなった。首都圏方面からの大動脈が閉鎖されたことにより、入込客数は大幅に減少した。

○月別の構成比では、8月が最も多く、次いで7月となった。平成22・23年については、8月に次いで10月の構成比が高い傾向にあったが、平成24年については、夏季への観光入込客の集中がみられる。